

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：青少年対策費

事業名 ぎふ立志リーダー養成推進費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

子ども・女性部 子ども・女性政策課 青少年係 電話番号：058-272-1111(内3520)

E-mail：c11239@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,027 千円 (前年度予算額： 4,630 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,630	0	0	0	0	0	265	0	4,365
要求額	4,027	0	0	0	0	0	265	0	3,762
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

近年、急速に国際化・情報化が進む中において、広い視野を持ち、自ら考え、判断し、行動できる次世代のリーダーを育成するため、県内中学生対象の塾を開催する。

(2) 事業内容

仲間とともに共同作業を通じて、次世代のリーダーが持ち合わせるべき資質を身につけるきっかけとする、中学生対象のリーダー養成塾を開催する。

日程：8月上旬の4日間

場所：トヨタ白川郷自然学校(予定)

塾生：生徒会役員等を担う県内の中学2年生及び3年生：32名

内容：講義、グループワーク等

（３）県負担・補助率の考え方

広い視野を持ち、自ら考え、判断し、行動できるリーダーを養成することで、未来の岐阜県及び日本の活性化を目指す取り組みであり、県として必要な負担である。

（４）類似事業の有無

無

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	261	講師謝金
旅費	413	費用弁償
需用費	282	事務用品費等
役務費	60	通信運搬費、保険料
委託料	2,611	業務委託料
使用料及び賃借料	400	送迎用バス借上料
合計	4,027	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ

○第５次岐阜県青少年健全育成計画

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

青少年に対し、ビジョンメイキングやネットワーク形成力などリーダーに必要な資質を学ぶ場を提供することで、次世代を牽引するリーダーを養成する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

個人の資質、能力を高めることが目標であり、数値目標の設定になじまないため。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	白川郷で開催されたぎふ立志リーダー養成塾に、県内の中学生22名が参加した。参加者からは「同じ県内で志を同じくする仲間ができた」「リーダーとして活躍する方から多くのことを学んだ」等の感想があり、次世代を牽引するリーダー養成を進めることができた。
令和5年度	白川郷で開催されたぎふ立志リーダー養成塾に、県内の中学生24名が参加した。参加者からは「リーダーとして大切なことが学べた」「社会人になってからもよい財産になった」等の感想があり、次世代を牽引するリーダー養成を進めることができた。
令和6年度	白川郷で開催されたぎふ立志リーダー養成塾に、県内の中学生24名が参加した。参加者からは「リーダーとしてあるべき姿を知ることができた」「同じ志をもつ仲間と出会えて刺激になった」等の感想があり、次世代を牽引するリーダー養成を進めることができた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 2	グローバル化が急速に進む中、次世代の青少年リーダーを養成することは、未来の岐阜県及び日本にとって必要性が高いものである。
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	参加した塾生に対するアンケートでは、開催直後はもちろん、数か月後の追跡調査においても高い数値を示しており、事業の有効性は高い。
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 2	アンケート等のデジタル化を進めた。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 より多くの学校から参加していただけるよう、一層周知に努める必要がある。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 卒塾生及びその保護者に好評であることに加えて、事業終了後に多くの卒塾生が活躍しており事業の必要性や有効性は高いことから、今後も継続して実施するとともに、実施後のアンケート結果等を踏まえ、プログラム内容や実施方法の更なる向上を目指す。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	